

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆税収上振れ1.8兆円どまり 2万円給付財源、他の財源が必要に

・財務省が発表した2024年度の国の一般会計の決算概要で、税収は見込み額より1兆7970億円上振れた。自民、公明両党が掲げる国民1人当たり2万円の現金給付は必要な予算規模が3兆円台半ばとされる。石破茂首相(自民党総裁)は赤字国債に依存しない方針を示すものの、税収の上振れだけでは足りず、他の財源が必要になる。

◆6月の平均気温、過去約130年で観測史上最高 海面水温も1位タイ

・気象庁は今年6月の日本国内の平均気温が平年(2020年までの30年平均)よりも2.34度高く、統計を始めた1898年以降で最も高かったと発表した。これまで最高だった2020年の1.43度を上回った。日本近海の6月の平均海面水温は平年よりも1.2度(速報値)高かった。24年と並び、統計を開始した1982年以降で1位タイの記録となった。

◆国の税収75兆2320億円 5年連続最高、法人税はバブル期迫る

・財務省が発表した2024年度の国の一般会計税収は75兆2320億円だった。前年度より4%増え、5年連続で過去最高を更新。このうち企業から徴収する法人税収は17兆9101億円となり、バブル期以来の高水準。企業業績が拡大した効果が出た。24年度の税収は補正予算を編成した同年11月時点では73兆4350億円と見込んでいた。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆老朽水道管、更新資金足りない 財務省分析「料金8割引き上げ必要」

・全国の上水道事業の99%が水道管など設備の更新に必要な資金を確保できていない恐れがあることが財務省などの調査で分かった。更新費用を水道使用料だけで賄おうとする場合、料金を平均で8割引き上げる必要があることも明らかに。上水道事業は原則必要経費を住民が支払う使用料で賄うが収支見通しが甘い自治体が多いとの見方。

◆三井ホーム、現場での仮設エアコン導入を標準化

・三井ホームは6月1日の改正労働安全衛生規則施行を受け、現場での熱中症対策として上棟が完了した現場における仮設エアコン設置の標準化に取り組む。現在は千葉県内のほぼ全ての現場に設置を完了。東京エリアにおいても順次導入を進める。汗の付着やクロス伸縮による品質低下防止やコミュニケーション活性化など環境改善以外の効果も。

◆TOTO田村信也社長「関税受け米国で3～4%値上げ、売れ行きは絶好調」

・TOTOが海外の2大市場である米国と中国で変化に直面している。ウォシュレットを中心に攻勢を強める米国で、トランプ政権による高関税政策が発動された。不動産不況で苦戦が続く中国では、2工場を閉鎖して2025年3月期に341億円の減損損失を計上した。

《 注目商品 》

■ダイキン、遠くの足元まで直接温風を届ける床置形エアコン

・足元に沿わせた温風をより遠くまで届ける「床置形ハウジングエアコン」を発売。「足元暖房気流」を新搭載。床に沿って吹き出す温風が一般的な石油ファンヒーターと比べ最大約1.6倍の距離まで到達し、暖房が効きにくい吹き抜け空間でも足元をしっかりと暖める。



■YKKAP、リフォーム用樹脂製内窓「ウチリモ 内窓」

・引違い窓の見込みを薄くし、さらに枠を室内側に持ち出す「枠持ち出し納まり」により、窓額縁の取り付け寸法が最小47mmあれば、ふかし枠なしで取り付け可能なリフォーム用樹脂製内窓。ふかし枠と補強材が不要なため意匠性が向上し、費用も抑えることができる。



■LIXIL、最適・最小化した新コンセプト「ULキッチン」

・“次世代のウルトラライトキッチン”「ULキッチン」を発売。キッチンには収納量や機能性よりもデザイン性を求めるミニマル思考が増えつつあることを踏まえ、キッチンを構成する「デザイン」「セレクト」「スペック」の3要素を見直して最適・最小化。

